

# 山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用  
 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援  
 については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームあさひ
(ユニット名)	ひめさゆり
所在地 (県・市町村名)	西村山郡朝日町大字宮宿360番地の6
記入者名 (管理者)	鈴木 裕子
記入日	平成20年11月4日

# 山形県地域密着型サービス自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より、一人ひとりが安心して生活していけるような暮らしの提供を理念としてつくりあげている。事務所に理念をはり、スタッフがいつでも見られるようにしてある。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時にホームの理念や方針を学び、実践に向けて取り組んでいる。理念を基に、ユニットごとにケア方針を作成し目標達成できるよう、職員皆で同じケアが出来るよう、取り組んでいる。又2~3ヶ月ごとにケアを振り替える作業をし、確認するようにしている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	月に1回、ほのぼのの便りを委員会で作成し、発行している。ホームの中での行事や雰囲気伝え、理解していただけるよう取り組んでいる。(地域の方々に配布。)年に1回家族の方々と交流できる行事、懇談会を開き、年々家族の参加が増えているように感じる。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	いつでも立ち寄りやすい雰囲気を作り、笑顔で声を掛け合っている。行事等への参加を呼び掛けている。買い物等に出掛けると、近所の方より声を掛けられ、立ち話をしてくれることも増えた。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の行事や他施設の祭りなどに参加し、少しでも多く地元の人と交流できるように努めている。小・中学生の課外授業や地域ボランティアを積極的に受け入れ、交流の機会を増やしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	年4回の広報誌で、介護予防や認知症の理解を求める内容も記載している。	○	今後事業所での実践内容を踏まえて、地域の様々な研修、会合に参加しながら認知症ケアの啓発に努めていく必要がある。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を行うと同時に、ユニット内で話し合い、改善すべき点を少しずつ改善するため取り組んでいる。又、前回の評価結果を踏まえ、改善に向け取り組んでいる。	○	前回の改善計画シートの点検が不十分だったように感じる。全員で計画を立て取り組む必要がある。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の会議で取り上げられた検討事項や懸案事項について、その経過を報告しあい、1つひとつ積み上げていくようにしている。毎回事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう心掛けている。これまで沢山の意見を頂戴し、サービス向上に活かしてきた。	○	商店街にあるため、日頃からお世話になっている。メンバーに商店街の代表もからも入って頂くなど、メンバーを増やすか、検討中である。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の窓口に折に触れ出向くようにしている。担当者は入居状況も把握している。困難ケースについては随時相談し一緒に関わるようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域で行われる研修に参加し、学んでいる。ユニット会議で情報交換を行っている。現在は利用している利用者がいないが、以前必要な支援をしたことがある。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ1人が代表し、研修に参加して学習した。その後伝達講習を行い、気を付けなければいけない所はないか事業所内で話し合い防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に時間を取り、家族の方に十分な説明を行っている。又、契約前に施設の見学をすすめて理解と納得を図っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が職員へ不満な事や、苦情を話しできる時間を設け、不満を改善出来るように心がけている。家族がうまく不満を聞き出してくれるケースもあり、家族と連携を図りながらケアに取り入れている。入浴時や、入居者が居室にいる時に世間話を交えながら、胸のうちは聞いている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、月上旬に事業所内での1ヶ月の様子や健康状態、外出した時の様子が分かるよう、1ヶ月の様子を写真を入れて送付している。受診の際は家族へ近況と診察の結果を報告している。変わったことがあれば、随時報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が面会に来られた時に、話しの中で意見や要望を言いやすい環境を作っている。不満や苦情は、職員間で情報を共有し会議で話し合い改善に向け取り組んでいる。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ユニット会議や、ユニット長会議を行い、意見が出た事を報告しあい、意見を聞きながら活動に活かしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>毎月1回、会議を開き話し合いを行っている。正規職員が配属されるように勤務調整を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の移動は不定期である。利用者へのダメージを最小限にするため、1人ずつ交換している。両ユニットで馴染みの職員になれるよう、コミュニケーションを図っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修会には積極的に参加してサービスの質の向上に努め、職員のスキルアップを図っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換実習などでお互いの質の向上に取り組み、他施設の良い点などを取り入れている。	○ もう少し他のグループホームを見学して良いところを取り入れたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	シフト勤務の工夫や、希望休の取り入れなどを行っているが対人関係の悩みなどストレス軽減まで至っていない。	○ オープンに話を出来る雰囲気作りをしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の努力、実績などがあまり評価できておらず、各自が向上心を持って仕事をしているかは疑問である。	○ 経験や実績などを踏まえて、評価する環境を作っていきたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの相談があった際は、必ず本人に会って身体の状態や生活状態を把握するようにしている。本人の思いや不安を聴き受け入れるようにしている。職員へ思いを伝え、入所に備えている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの家族の苦労や思い、今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくり聞くようにしている。家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか、話しをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況などを確認し、場合によっては他の事業所を紹介したり、つなげたりしている。受け入れ時不安な事柄に対しては、方策をユニットで検討し、家族にも理解を得たうえで、受け入れている。		
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として常に学ぶことを忘れず、支え合いながら良い関係を築いている。わからない事などは、本人に聞いたり、一緒にやってもらいながら学んだりしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との信頼関係作りを大事にし、家族の立場の悩み、相談などを一緒に考え話し合う関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族、本人の思いや状況を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごす時間を勧めたり、行事に誘ったりしながら、よりよい関係の継続に努めている。家族の本人への思い、本人の家族への思いを受け止めて、職員間でも情報を共有し、来所時に潤滑油となるよう心がけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	車で外出して馴染みの場所に行ったり、知人に会いに行ったりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の相性を見極め、職員が間に入ったり、必要時には席を交換したりして良い関係作りに努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設に入所してから面会にはあまり行けてはいないが気軽に立ち寄れる雰囲気作りは心がけている。	○	他施設等に入所したら、面会し、馴染みの関係の継続に努めたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の楽しみや本人の気持ちを大事にして利用者本位を心がけている。困難な場合はミーティングなどで検討し、取り組んでいる。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に自宅に訪問したり、本人や家族に聞くほか、利用後も折に触れ、本人や家族などから情報収集して把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入所時は家族からの情報を基本として、カンファレンス等で話し合い、プランを作成している。入所後は「できない」という情報にとらわれず、本人の生活や全体像から把握し、新たな情報は職員間で共有するようにしている。カンファレンスを通し、現状を総合的に把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、ケアプランの見直しを行っている。また、家族から確認してもらい同意を得ている。職員間で随時プチカンファレンスを行い、意見やアイデアを出し合っている。	○	カンファレンス前に、本人及び家族と話し合いの場を設け、より本人、家族の意向が盛り込まれたプラン作成を心掛ける必要がある。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状態の変化や新たな課題が生じた場合は、その都度、話し合いをして計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中の様子など細かく記録に残している。又、気付いた事があれば生活リズムパターンシートに記入し職員全員で情報共有している。時々、プチカンファレンスなどしている。ケアプラン等の見直しの際も職員で話し合い、情報を共有している。記録に残し他の職員のケアを参考にしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	地域でのイベントがある際は公民館等に出向き催し物に参加させていただいたり、ボランティア等による踊りや、小学生による合奏や歌などもしてもらっている。	○	避難訓練や心肺蘇生等の研修には消防の方にも来て頂き協力してもらっている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	他の関係者や事業所などにも相談し支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要は方はサービスを利用している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1度は往診をお願いしたり、定期受診を行っている。自宅にいたところからのかかりつけ医を継続している。	○	急変時などは主治医や協力医院に相談し受診の対応行っている。家族対応の方には、状況を説明し場合によっては受診をお願いしている。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月1～2回専門の医院を受診し相談を行い、薬の調整等をまめに行っている。	○	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に1回登録看護師から不安な事や具合が悪い人の事を相談しにのっもらっている。アドバイスをもらい早期発見し健康管理を支援している。急変時は随時電話で連絡を取りあう態勢を取っている。日頃の状態を看護師に伝え、状況を把握してもらっている。体調に変化があった際は、看護師に相談し指示を仰いでいる。場合によってはすぐに主治医に相談している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入退院時は、病院関係者と情報交換し、家族と連絡を取りながら安心して入院生活が送れるよう、安心して退院できるよう取り組んでいる。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	常日頃家族には、現在の状況を説明している。	○	重度化や終末期に向け、契約時に家族とどんな話し合いをしたか職員間で確認しておく必要がある。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族や医療機関とも相談したうえで今後の状況変化に備えておきたい。	○	家族とも話し合いどのように取り組んでいくのか、検討や準備する必要がある。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移住する際は、本人情報を詳しく説明し伝えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人のプライバシーを尊重し、さりげなく目立たぬ様に言葉掛けや対応を全員が心掛けている。更に、職員が本人のプライバシーに関する事を地域の方や他の家族、面会者に対し話さないことを会議などの折りにふれて再確認し、徹底している。	○ 個人情報の秘密保持においては、職場の指導によって全ての職員が理解し、徹底が図られている。一方、地域に密着していることで情報が流れる現実にある。その様な問題が起きた場合には速やかに職員全員で原因を突き止め改善する努力をしてゆきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言葉で十分に表現できなくとも、ジェスチャーや顔の表情などでのコミュニケーションを通し、本人が決める場面を作る働きかけをしている。場合によっては、本人の希望や好みを把握している職員が、その気持ちを理解して決めていることもある。	○ 同じ言葉やジェスチャーでも、利用者の反応がいつも同じであるとは限らない為、日々の密接な相互関係を築き、職員の押しつけではなく、一人ひとりが自分で決定できる場面づくりを常に心掛けてゆきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まったタイムスケジュールは確立していないものの、基本的な一日の流れに沿って毎日を過ごしている。職員の勤務態勢によっては、利用者の思いに応える事ができず、配慮に欠ける時もあった。	○ 一人ひとりの個性、人権を尊重しながら、柔軟な対応を心掛け、日々の生活の中で工夫を凝らし、個別性のある支援を実践してゆきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	日頃から化粧やおしゃれを楽しみ、馴染みの美容院でカットや毛染めしてもらっている方もいる。毎朝の身だしなみの自己決定がしにくい方へは職員と一緒に考え、支援している。男性の髭もこまめに剃っている。	○ トイレ利用後の着衣の乱れを、利用者のプライドを傷つけることなくさりげなく直せるよう支援してゆきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材をピックアップして献立に反映し、メニューに合わせて食材を切ったり、味付けしたり、片づけまでの一連の作業を共に行い楽しんでいる。「食べることが何よりも楽しみだ。」と、食事を心待ちにしている方もいる。	○ 夕食の献立においては、利用者に相談している時もあるが、一方的に職員が決めてしまう時も少なからずある。これからは、利用者の気持ちを引き出す声掛けを工夫してゆきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族の協力により、一人ひとりの状況に合わせて好みの飲み物、おやつ等を楽しんでいる。現在、利用者で煙草を愛用している方はいないが、喫煙所を設置してある。	○ 空腹を満たすため、自室にてお菓子等のおやつを楽しむ方もおり、体重の管理が難しくなっている。さりげない声掛けの仕方を工夫し、急激な体重の変化、足腰への負担減少、更に病気の予防につなげてゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。尿意があつてトイレに1人で行くことができていても、既に失敗してしまった場合も想定し、さりげなくパットの確認、交換などの支援を行っている。時間を見計らつてトイレ誘導することにより、パットの使用が減つたり、リハビリパンツから布パンツに戻つた方もいる。この様な事が自信につながってくる為、引き続き取り組んでゆきたい。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	殆どのかたが一日おきに入浴し、入る順番も職員が決めている。しかし、入浴中は、ゆっくり時間を掛け、会話を楽しみながら個別にあつた入浴の支援をしている。	○	「高齢だから体力を消耗する。」との職員の声により、毎日入浴したい方も遠慮している状態。利用者のその日の希望を確認し、くつろいだ気分で好きな時間に気持ちよく入浴できるよう支援してゆきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	室内で過ごすことを好む方には、体操やレクリエーションなどを通して日中の活動を支援している。寝付けない時には、温かい飲み物やお菓子を提供したり、添い寝したりして必要な休息や睡眠がとれるよう支援している。	○	就寝前薬の内服する時間が、職員の都合で日々変動している。眠れない利用者においては、「何故、眠れないのか？」という原因を探り、家族や主治医とよく相談して調整に努め、一日の生活リズムを確立してゆきたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事においては、1人ひとり得意分野があり、自ら進んで力を発揮している。仕事の合間や終了の際には、必ず感謝とお礼の言葉を伝えていく。しかし、地域行事への参加や遠出の外出等においては、高齢、車酔いする等の理由で、なかなか実行に移せていない。気晴らしに「外気浴」を希望する方への支援もできていない反面、天気の良い日には、誘い合つて全員で外出するときもある。	○	大切な一日が、マンネリ化しないよう、一人ひとりに合った役割、楽しみ事、気晴らしの支援を見極め、職員全員で実行に移してゆきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出の際に、自分の財布から支払うのを楽しみにしている方もいる。また、「まんじゅう1つ」などを楽しみにして購入する方には、必要な金額を手渡し、使えるように支援している。	○	日頃からお金の心配をしている方に、少額でも財布を所持してもらつたり、必要なときに支払う場面作りを提供したりを引き続き支援してゆきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援している	天気や身体状況に応じて、敷地内の駐車場を一周したり、畑の出来具合を見に行つたり、と短時間でも戸外で過ごし、季節を感じていただいている。	○	外出する利用者が固定化傾向にある。歩行困難な方にも、車や車椅子を利用し、短時間でも戸外に出る機会を作ってゆきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行つてみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「生まれた家に帰りたい。」「娘の所に行きたい。」などの利用者の思いが出された時は、家族の協力を得て実現している。しかし、車で1時間以上離れている方への懐かしい場所への外出については、ガソリン代等の経費の問題で実現していない。	○	本人の意欲や自立保持の為にも、家族との連携を密にし、家族の負担にならない程度に、これからも取り組んでゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに電話しやすい雰囲気や、職員からの声掛けを行う。利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。ほとんどの方が自ら電話したい、手紙を書きたい、など言わないため職員から声掛けを行っている。家族の方から電話が来た際は、取り次いだりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族の方も親の家を訪れるような気軽で来やすい雰囲気作りを心掛けている。訪問時間などは定めておらず、都合のいい時間帯に、いつでも来ていただけるような配慮をしている。本人の馴染みの人たちが、いつでも訪ねて来ていただけるよう、時間などは定めていない。訪問時はゆっくり過ごせるよう、湯茶等物品の用意をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急やむを得ない場合実施した例がある。家族に説明した上で同意をもらい、経過を報告しながら進めた。1週間ごとにカンファレンスを行い、約2ヶ月後に解除した。	○	定期的に身体拘束に関する勉強をしたい。見やすい所に具体的な行為を掲示し確認するようにしたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	利用者が外出しそうな時は止めるのではなく、さりげなく声を掛けたり、一緒についていく等、安全面に配慮している。玄関にセンサーを置き、必要な時はセンサーを作動している。出ていく気配を見落とさないよう見守り、スタッフ同士声を掛け合い、離設しやすい利用者の所在確認を行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間の中で記録等を行いながら、さりげなく全員の状況を把握するよう努めている。調理等している時は、職員必ず1人はリビングにおいて全員の状況を把握し、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くような事はなく、利用者の状況変化によっては注意を促していくなど、利用者に応じた対応をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から予測される危険を検討している。ヒヤリハットを記録し、職員の共有確認を図っている。一人ひとりに合わせた対応を心掛けている。	○	事故やヒヤリハットに関する報告、記録をきちんと整理、保存し、事故防止策を検討している。しかし、活かしきれていないため、今後の課題。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、心肺蘇生法の研修を実施し、全ての職員が対応出来るようにしている。個別に急変時の対応をケアプランに記載している。	○	夜間等人手が少ない時の緊急時対応についてマニュアルを整備し、周知徹底を図りたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に避難訓練を行っている。又、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を行っている。	○	火災や地震、水害等に備えて食料や飲料水、寒さをしのげるような物品等を準備しておきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	様々な役割活動や外出によりリスクが高くなるものの、力の発揮が出来る場がある事によって利用者の表情を明るくし、むしろ行動の障害を少なくしている事を見てもらったり、説明している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を把握しており、少しでも変化が見られた時はバイタルチェックを行い、変化時の記録をつけている。状況により受診につなげている。又、登録看護師に報告し指示をあおいでいる。一人ひとりの持病やアレルギーの有無、留意事項を把握している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーなどケース毎に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服用できているかの確認をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を採り入れている。散歩、家事活動等、身体を動かす機会を適度に設けて、自然排便できるように取り組んでいる。曜日を決めておやつ時間にバナナを食べたり、10時のお茶の時間に牛乳を飲んだり自然排便を促している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の声掛けや、力に応じて職員が見守ったり介助を行っている。以前は口腔ケアが徹底しなかったが、最近はスタッフ一人ひとりが意識し、口腔ケアを行うようになった。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	タンパク質を多くとる様になっている。水分は1日1000cc摂取する。食事の種類(普通・きざみ・粥食)や誤燕の有無などないか確認している。食べることが楽しみ。美味しく楽しく食べられるよう工夫していきたい。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い・うがいを実施している。排泄介助時、手袋使用(使い捨て)。手すり、椅子、トイレ内はハイターいりで拭いている。インフルエンザはワクチン摂取している。	○	手洗い・うがいを徹底する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	魚介類は十分水洗いし、よく火を通してしている。調理器具は十分加熱又消毒している。調理する人は手洗いを実施している。毎日食材を購入している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には花を植えている。駐車場などにゴミが落ちていないか気を付けたり、掃き掃除などして綺麗にしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に季節の花を飾ったり、外出時の写真を飾っている。冬はコタツを設置している。花が大好きで心が和むよう。できるだけ絶えないよう続けたい。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士、居室で話しをしたりリビングに集まりお茶している。場合によっては1人の時間を設けたり、部屋に案内したり、居心地のいい場所を支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、使い慣れた物を持ってきていただき、家にいるときと同じ様な居室を作っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気洗浄機、冷暖房が各居室にあり、こまめにチェックしている。換気なども常に行い、臭いがこもらないようにしている。冬は加湿器を利用している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がない。手すりがある。車椅子で入れるよう広いトイレ設置している。個人の身体機能別によりベット、フロア、畳を利用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の居室やどこに座ったらよいか分からなくなるので、名前を貼りトイレには大きく分かりやすく、張り紙を貼っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑があり季節の野菜を作っている。ベランダには自分の畑で取れた豆類を干している。花を植え散歩しながら花見をしている。色んな花を植え楽しみたい。		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

遊びリテーション等いろいろ取り入れ取り組んでいます。体操だけではなく、身体全体を使っての運動だったり、足を使っての運動をたくさん行っています。畑仕作業にも力を入れてまいす。季節の野菜を畑で収穫し、献立に取り入れ、食事の際「ここで収穫した野菜を使っている」などの話で賑やかになります。